

中小企業によるIoT 活用先進県徳島をめざして

8月に徳島市で開催された四国地区経済同友会交流懇談会で、公益社団法人経済同友会代表幹事小林喜光氏(三菱ケミカルホールディングス取締役会長)の記念講演がありました。その中で、小林氏は、GDPに代表されるマーケットの価値だけでなく、環境や社会問題など公共的観点、技術革新の3つの視点で企業経営を考える必要があることを指摘されました。特に、現在起こっている飛躍的な技術革新で注目されている分野としてあげられたのが、IoT、ビッグデータ(大量のデータを分析し、新しい価値を生む形で利用可能にする)、AI(人工知能)、ロボット、3Dプリンターです。

なかでも、IoTという言葉が新聞、雑誌等で見ない日はないくらいですが、Internet of Thingsの略で、あらゆるモノ(物や人)がインターネットにつながることによって、モノの状態や使い方、使った結果などのデータが送られ、そのデータを利用、分析することによって、ビジネスの効率化や新しいビジネス展開につながっていきます。政府もIoTの推進を成長戦略の一つとして打ち出しており、すでに実践している日立やホンダといった大企業だけではなく、中小企業での普及に力を入れ始めました。

県内の企業でも、車の部品の装置製造会社では、国内外にある納入先での自社装置の制御・稼働状況のデータをインターネットで常時収集、チェックすることによって、装置に不具合が生じた際の指示・対応が迅速となり、出張費の大幅削減や顧客の満足度向上につながった、などの事例が見られ始めています。この例は、製造業ですが、IoTの活用は、小売り、流通、サービスなどあらゆる業種で考えられます。医療、農業、観光などの分野ではIoTを活用した新しいビジネスモデルがどんどんでてくるでしょう。

全国のこうした動きに遅れをとることのないよう徳島経済研究所は、8月5日に「徳島IoTフォーラム2016～ビジネスに新たなムーブメントを巻き起こす!!」を徳島大学、阿波銀行などの共催で開催しました。「中小企業によるIoT活用先進県徳島」をめざし、県内企業のIoTへの関心を高めるためのキックオフイベントと位置付けています。秋から産学官金連携による研究会を立ち上げ、事例研究やIoT活用に必要な機器情報の共有化などを通じて、具体的な成果が生まれるよう企業の取り組みを後押ししていきたいと思っています。